

平成26年7月14日

浜田市議会議長 原 田 義 則 様

議員名 芦 谷 英 夫



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成26年7月7日（月）
2. 研修内容 協同労働シンポジウム
「地域課題に取り組む新たな働き方
～いきがい・仕事おこし・まちづくり～」
3. 研 修 先 広島市
4. 調査経費 浜田駅（バス）⇒広島バスセンター⇒浜田駅
交通費（バス） 5,340円
5. 調査研究活動の概要
別紙のとおり



協同労働シンポジウム「地域課題に取り組む新たな働き方」

- 1 日 時 平成26年7月7日(月) 15時～20時
- 2 場 所 広島市 広島県民文化センター
- 3 内 容

■協同労働シンポジウム「地域課題に取り組む新たな働き方～いきがい・仕事おこし・まちづくり～」が開かれ、映画「ワーカーズ」上映、講演、基調講演、パネルディスカッションなどが行われた。

■NHK広島放送局ディレクターの夜久恭裕さんは「里山資本主義」についての講演で、里山資本主義はマネー資本主義の反対語で、自然にあるものを生かし、昔ながらの知恵や技術を復活させ、人・金・モノを地域内で循環させ、自然や地域に密着した地域の営みを行うことである。

■その中で次の3例を紹介された。電力会社に勤めていた松嶋匡史さんはパリでジャムの魅力に出会い、奥様の実家のある周防大島に移住し、手作りジャムの専門店をオープン。広島県庄原市で高齢者や障害者の施設を運営する、社会福祉法人理事長熊原保さんは、過疎を逆手に取ったユニークな福祉の試みとして、①空き家の活用、②農業の得意な高齢者が余らせた野菜の活用、③地域通貨の創設などを行う。真庭市「銘建工業」の中島浩一郎社長は、集成材生産、木質ペレット生産の国内トップシェアを誇り、真庭市のバイオマスタウン事業の中心的な存在として事業を進めている。

■東京大学特任教授辻哲夫氏は「高齢社会の新たな課題」と題して講演、人口の高齢化が進み2020年には高齢化率が31%、2055年には39%に達し、特に都市近郊地域が急速に高齢化する。平成12年に始まった介護保険制度は、予防重視、認知症への対応、単身高齢者への対応などの課題に向け見直しが行われる。

■生活習慣病が要介護予備軍につながることから、メタボリック症候群の予防、生活習慣病の発症重症化予防が必要であり、社会参加と健康寿命の関係が指摘され、外出が健康予防、認知症予防につながることから、外出・社会参加・生きがいなどの究極は就労であり、就労こそ最高の予防政策である。食・農・子育て・福祉などの分野での就労場の発掘と拡大が必要である。

■高齢化は一層進行することから、住まい・生活支援・予防・介護・医療などからなる、地域包括ケアシステムが打ち出されている。医療との連携強化、介護サービスの充実強化、予防の推進、見守り・配食・買い物など多様な生活支援サービス、高齢期でも住み続けられるバリアフリー住宅などが必要となる。

4 所 感

■人口の減少などにより地域が弱体化しており、里山資本主義のようなこれまでの開発一辺倒、成長ありきではなく、地域の資源に着目しそれを掘り起こし付加価値をつける取り組みが必要である。ことに中国地方に先進となる例があることに着目したい。

■高齢化に対応した施策は待ったなしであるが、高齢者自らの健康づくり、介護予防の取り組みが重要であり、そのため高齢者が社会に参加しやすい環境づくり、地域資源を総動員した多様な福祉サービスの体系づくりが必要である。

■高齢者の福祉・介護の推進と同時に、中年者からのメタボリック症候群の予防など健康づくりが要介護リスクを減らすことになり、そのため職場、企業、保険者、地域、行政などが連携した体系的な施策が必要となっている。